

[28] radix : 九州大学全学共通教育広報

<https://hdl.handle.net/2324/20393>

出版情報 : radix. 28, 2001-04-07. 九州大学教養部大学教育研究センター
バージョン :
権利関係 :



radix

radix (ラーディクス) は、根、
根源を意味するラテン語。ヒト
の根源にまなざしを向け、豊か
なこころの根を広げたい。

2001. 4. 7
九州大学全学教育広報 No. 28



「スケーリング・ニューハイツ」(31頁参照) 撮影 西谷 郁

九大をつかいこなそう	2
こんな授業みつけ	14
世界・日本 9	22

九大をつかいこなそう

六本松地区教室・施設・手続き 編

I. 六本松キャンパスの建物・教室

六本松地区には、本館、1号館、2号館、3号館、4号館、新1号館、特2、21世紀交流プラザ(以上の建物には教室があります)と図書館、体育館・武道場、厚生センター(1階=購買、書籍、プレイガイド、2階=軽食堂)、学生会館(1階=食堂、2階=談話室、集会室)、課外活動共用施設、亭々舎などの建物があります。

教室には建物名(○号館)と階数によって番号が付けられています。

例えば 112番教室は 「1」号館、「1」階の「2」番目の教室です。

N143番教室は 「新1」号館、「4」階の「3」番目の教室です。

また、特1番教室、特2番教室、ゼミ1～7番教室、実験室・製図室には規則だった番号は付いていません。下の教室名・建物名一覧、5ページの「六本松キャンパス案内図」でその場所を確認してください。

22～26番教室……………本館2階	}	授業時間割には本館の教室は「本36」などと書いてありますが、正式の教室名には「本」はついていません。
30～39番教室……………本館3階		
特1番教室……………本館3階		
第1・2製図室……………本館3階		
110～114番教室……1号館1階		410～411番教室……………4号館1階
120～122番教室……1号館2階	LL教室	地学・生物学実験室……………4号館1階
ゼミ1～ゼミ7番教室……1号館2階		420番教室……………4号館2階
130～132番教室……1号館3階	情報教育教室	生物学実験室……………4号館2階
134番教室……………1号館3階		430～431番教室……………4号館3階
135～136番教室……1号館3階	情報教育教室	N110番教室……………新1号館1階
化学実験室……………2号館1階		N120～N123番教室…新1号館2階
230番教室……………2号館3階		N130～N133番教室…新1号館3階
		N140～N143番教室…新1号館4階
		N150～N153番教室…新1号館5階
物理学実験室……………3号館1階		特2番教室……………六本松キャンパス北側隅
320番教室……………3号館2階		21世紀交流プラザ……………
		六本松キャンパス北側隅

学内の情報伝達手段としては次のような設備などがあります。

公用掲示板……新1号館下の通路、本館と1号館の間の中庭

★ 電子掲示板……本館玄関ホール、本館トリトン前、新1号館下の通路、生協第1食堂(学生会館)

クラス掲示板……本館と1号館の渡り廊下 学生用掲示板……グラウンド西側、厚生センター下の通路

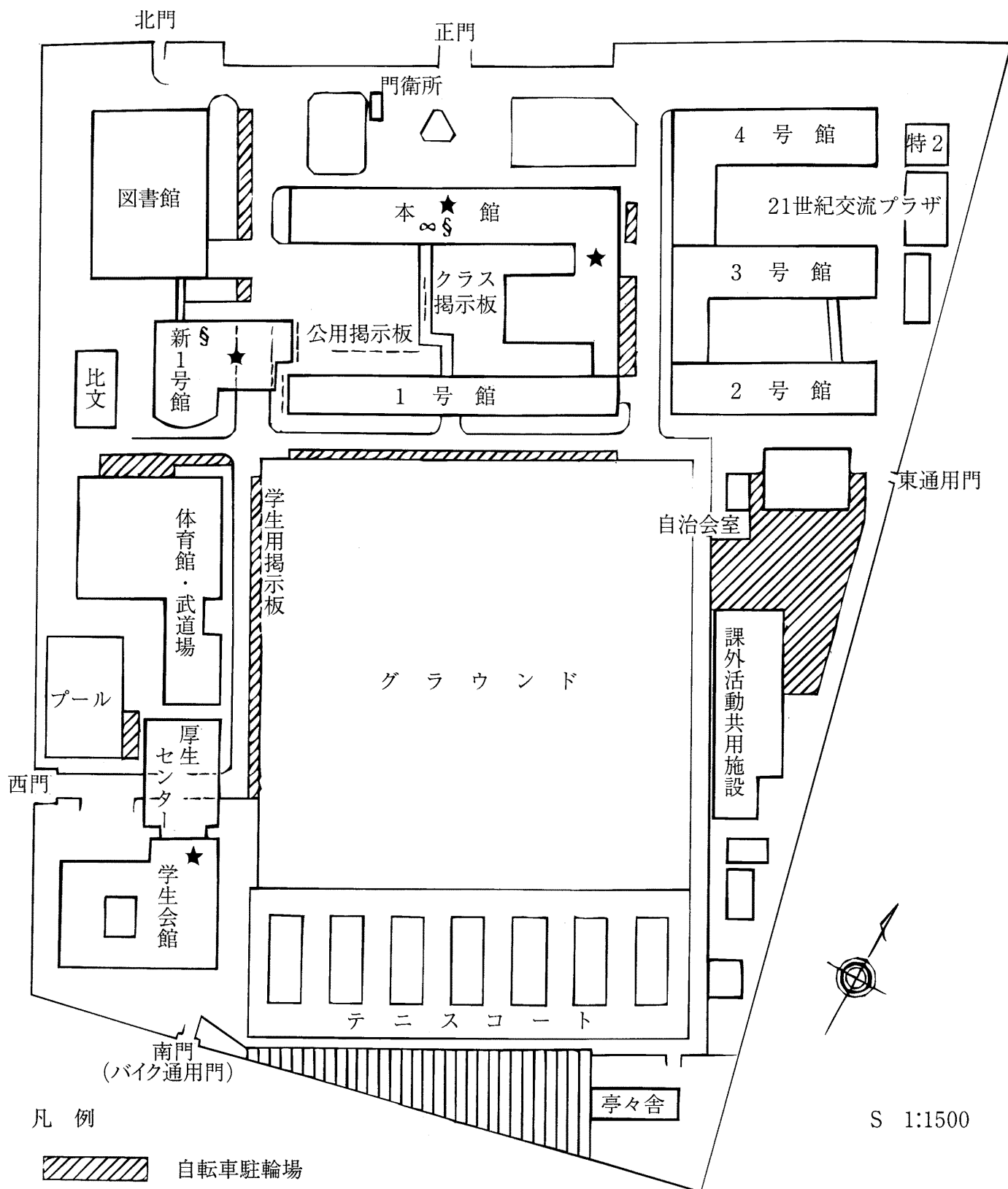
§ RADIXスタンド……本館玄関ホール、新1号館1階ホール

電子掲示板(パソコンからアクセスする場合) アドレス <http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/index-j.html>

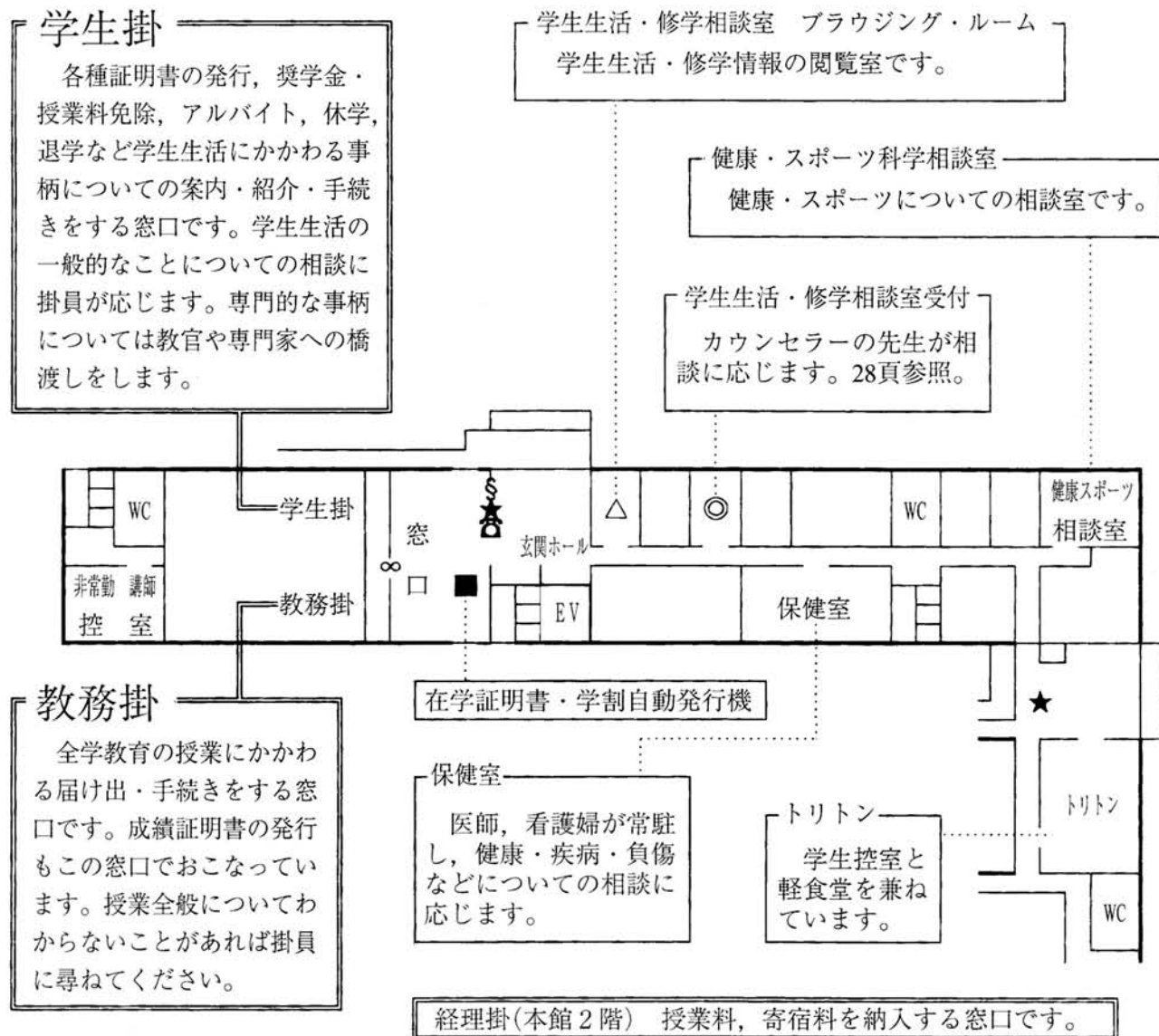
六本松地区ホームページ

アドレス <http://hervr.rche.kyushu-u.ac.jp/>

六本松地区キャンパス案内図



Ⅱ. 本館 1 階 事務手続きの窓口と相談室



Ⅲ. 情報のキャッチ・発信

公用掲示板

授業，試験，研修，留学，奨学金など，学生生活にかかわる詳しい情報が掲示されます。学科や教官からの情報，呼び出しなども掲示されます。

電子掲示板

休講，補講，教室変更，授業に関する一般情報，事務からの呼び出し，などが毎日新しい情報として掲示されます。

電子掲示板はパソコンからインターネットを通して閲覧することができます。

アドレス <http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/index-j.html>



クラス掲示板

本館と1号館の渡り廊下に設置されています。

学生専用掲示板

厚生センター下の通路と体育館前のグラウンド沿いに設置されています。

九州大学六本松地区ホームページ

アドレス <http://hesvr.rche.kyushu-u.ac.jp/>

「全学教育」「シラバス」を続けてクリックすれば、それぞれの授業の最新のシラバス（授業内容、授業の進行予定）を見ることができます。

授業によっては「クラス掲示板」が開設されている場合があります。先生への質問、友だちへのメッセージなどに利用してください。また、サークルや田島寮のページも覗いてみてください。

RADIX（九州大学全学教育広報）

全学教育に関する様々な情報を掲載しています。学生・留学生・先輩の体験記やメッセージ、授業にかかわる記事、留学や海外語学研修の案内など多岐にわたっています。

学生からの情報、記事を歓迎します。

全学教育についての「意見・要望」ボックス

六本松地区の授業、窓口、施設など勉学・生活に関わるすべてのことについて、意見、要望、訴えたいことがあれば、教務掛のカウンターに設置してある「意見・要望」ボックスに投函してください。署名があれば必ず対応します。

Ⅳ. 受講の準備

受講するクラス

授業にはクラス指定（基礎科目など）、クラス振り分け（外国語など）、クラスの選択（教養教育科目）、登録が必要な科目（外国語など）、受講制限（少人数科目など）などがあります。

振り分け、受講登録、受講制限については「公用掲示板」をチェックしてください。



「総合選択履修方式」では「九大の全ての授業」を、原則として自由に履修することができます。文科系は24単位、理科系は10単位までの履修が認められています。他クラス、他学科、他学部、留学生の科目、箱崎の語学をチェックしましょう。

受講クラスの選択には「全学教育科目履修要項」や「全学教育科目履修の手引き」を参考にしてください。

教科書、教室

教科書以外に器具や指定のレポート用紙が必要な場合があります。「公用掲示板」「シラバス」などの情報に注意しましょう。

どの教室で授業が行われるか分かりましたか。授業時間割と2ページの教室名・建物名一覧で確認しておいてください。

「健康・スポーツ科学実習」の授業は体育館とグラウンドを使用します。最初の授業時間にはスポーツができる服装で体育館に集合してください。

V. 質問・相談

クラス指導教官

それぞれのクラスを、六本松地区の教官1名と箱崎・病院地区の教官1名（農学部は2名）が担当しています。大学生活で分からないことや困ったことがあれば、質問や相談をしましょう。4月10日の「クラス懇談会」ではクラス指導教官との連絡方法をチェックしておきましょう。分からない場合には学生掛で聞いてください。

授業担当教官

授業で分からないところや疑問があれば時間中に質問しましょう。授業中に質問ができなかった時は、先生の部屋を訪ねましょう。本館玄関ホールの学内電話の前に教官の電話番号表が掲示してあります。電話で予約してから訪問してください。非常勤の先生については電話で連絡をとってみてください。

学生生活・修学相談室の教官

人づきあいのむずかしさ、修学上の問題、進路選択や学習上の悩みなど、学生生活における様々な問題について相談を受け付けています。詳しくは28頁を見てください。

教務掛・学生掛

学習・修学上の質問・相談を受け付けています。また、専門家への橋渡しをします。

Ⅵ. 自由に使える場所

図書館

学生証が入館証を兼ねています。図書館の本を無断で持ち出すと警報がなります。

開館時間

月曜～金曜 授業期間 9:00～20:00

試験期間 9:00～21:00

夏休み等 9:00～17:00

土曜・日曜 10:00～17:00

休館日 祝・祭日, 月初めの図書整理日

講義に使われる普通の教室

講義期間中の授業時間帯(8:40～16:20)で講義に使用されていない教室は自由に利用できます。自習, 読書, 友だちとのおしゃべりにどうぞ。

情報教育(パソコン)教室

平日は講義に使用されていなければ20時まで利用できます。休暇期間中も開いています。

学生会館(食堂, 談話室)・軽食堂・トリトン

食堂, 軽食堂, トリトンは営業時間の終了時間まで, 第1, 第3談話室は16時まで, 第2談話室は21時まで自由に利用できます。

体育館・グラウンド・テニスコート

体育館とグラウンド・テニスコートが自由に利用できる時間帯があり, 道具の貸し出しを行っています。また, 年間を通じて登山・キャンプ用品の貸し出しも行っています。

Ⅶ. 申し込んで使う場所

普通の教室

特別(グループ)利用申し込みは10日前から前日の午前中までです。

学生会館

特別(グループ)利用申し込みは4週間前から前日の午前中までです。

亭々舎

クラス, グループの読書会や懇親会々場として利用できます。申し込みは利用日の1カ月前から3日前までです。

Ⅷ. 学外の研修施設

九大山の家(大分県玖珠郡九重町筋湯)

九州大学の学生・教職員のゼミや合宿, 登山の基地として利用されています。

九重共同研修所(九大山の家の横)

九州地区国立大学の学生・教職員の研修施設です。

島原共同研修センター(島原市郊外)

九重共同研修所と同様の施設です。

Ⅸ. 駐輪場

自転車・バイクはそれぞれの駐輪場(3頁参照)にとめてください。バイクは南門(3頁参照)からに限り入構を認めています。

教室, 研修施設などの利用申し込み手続き一覧

種 別	手続先掛名等	必要書類・手続期間等	注 意 事 項 等
教室使用願	課外活動	使用日の10日前～前日の午前中	
亭々舎使用願	共用施設窓口	使用日の1カ月前～3日前	
学生会館使用願 学内者のみの使用 学外者を含む使用	学生会館窓口	学生証 4週間前～前日の午前中 学生証 4週間前～1週間前	
体育施設一般使用 運動用具短期貸出し 登山用具貸出し	体育館窓口	一般使用の時間帯は窓口に掲示 学生証と引き換え(土曜日を除く) 学生証	○土曜日の体育施設使用は要予約 ○体育館等での一時使用 ○1カ月前から予約可
九重山の家利用願	課外活動	利用日の2カ月前～15日前	○1年前から予約可
九重共同研修所予約 同上利用申し込み	共用施設窓口	1年前～2カ月前 2カ月前～15日前(要予約)	○5人以上の団体であること。
島原共同研修センター 予約・申し込み			
入寮申し込み 松原寮・貝塚寮	箱崎地区 学務部厚生課	9月, 翌年2月	○申請書類の交付は六本松地区学生掛でも行う。

六本松地区事務窓口案内

六本松地区で修学する1年半（医・歯・薬学部は1年）の間、皆さんは六本松地区にある全学教育事務室で事務手続きを行います。くわしい内容は、配付済みの「学生案内」「全学教育科目履修要項」「全学教育科目履修の手引き」などで確かめてください。下の事務手続き一覧を参照するほか、分からないところは各掛の窓口でたずねてください。

各掛の窓口受付時間

教務掛，学生掛…………… 8：30～17：00

寮務・課外活動掛…………… 8：30～12：00 13：00～17：00

経理掛…………… 9：00～12：00 13：00～17：00

事務手続き一覧

種別	手続先掛名等	必要書類・手続期間等	注意事項等
聴講届	各授業担当教官	各学期授業開始日から1週間	本年度前期は4月13日～4月19日 本年度後期は10月12日～10月18日 受講制限をすることがある。
履修・受験届提出	教務掛	各学期授業開始後2週目	本年度前期は4月20日～4月26日 本年度後期は10月19日～10月25日
履修・受験届確認		5月中旬，11月中旬	
追試験願		出願理由を証明する書類 原則として当該試験から3日以内	病気の場合は医師の診断書，忌引の場合は葬儀のはがきなど。
成績証明書		学生証 3日後に交付 英文の場合は7日後に交付	
日本育英会奨学金募集	学生掛	4月中旬（1，2年生1次） 10月上旬（1年生）	
奨学金継続願提出		4～5月頃に集中	地方自治体の奨学生はそれぞれの教育委員会に問い合わせること。
各種奨学金募集			
授業料免除願書		6月下旬（平成13年度後期分） 1月下旬（平成14年度前期分）	
学生教育研究災害保険の加入受付		4月，10月	
アルバイトの登録 アルバイトの紹介		5月上旬～11月上旬 常時	窓口の紹介簿で各自選択。
通学証明書 ■学割証 ■在学証明書 学生証再交付		学生証 即日交付 学生証 即日交付 学生証 即日交付 学生証再発行願	■学割証，在学証明書については，自動発行機により発行 紛失，汚損したら再交付を受けること。
定期試験受験証明		当該日ごとに交付	定期試験に学生証を忘れた場合。
現住所変更届 保籍地変更届 改姓・改名届			変更したら直ちに届けること。
休復学願 退学願		保証人が連署した願書 クラス指導教官の署名・押印 病気の場合は診断書添付	
海外渡航届		保証人承諾書，旅行計画書	
自動車入構許可証		学生証，免許証，車検証	非健常者で自動車通学が必要と認められる場合に限る。
盗難届			必要に応じて警察へも届けること。

※手続きの期間は変更されることがあるので，**公用掲示板**や**電子掲示板**の掲示をよく見ておくこと。
※願，届出，申込等の手続用紙は，担当掛の窓口用意されているので，必要なときには申し出ること。

どの授業を選択しようかな？

「総合科目」と「少人数ゼミナール科目」について

大学の授業科目区分は複雑に思えるかもしれませんが、高校までとは見かけが違っていただけで、とてもシンプルです。九州大学の授業科目区分は、下記の表のようになっています。

皆さんが1年次から箱崎地区日や病院地区日に履修する授業は、（低年次）専攻教育科目の授業です。六本松キャンパスで開講される専攻教育科目の授業もありますが、これは例外中の例外。1年次に六本松キャンパスで毎週4日間受けるのは、全学教育科目の授業です。1年次の言語文化科目、健康・スポーツ科学科目、情報処理科目などの授業は、クラスごとに履修する曜日時限と担当教官が決まっています。

どれが必修の授業なのかわかったら、次は、教養

教育科目の中からどの授業を履修するかを選択することになります。コア教養科目の場合は、二者択一的な選択と言えるかもしれません。選択肢が少ないのは、教養教育科目の柱となっているコア教養科目の授業は、できることなら全部を履修してもらいたいからです。皆さんの大半は、コア教養科目の領域別の共通授業概要を読み、授業内容の理解に基づいて、授業を選択することでしょう。

以下においては、教養教育科目の意味について考えながら、同じ曜日時限に複数の授業が開講されており選択の自由度が高い総合科目と少人数ゼミナールの授業について紹介することにします。

授 業 科 目 区 分

	教養教育科目	コ ア 教 養 科 目	
		個別教養科目	
全 学 教 育 科 目			1. 通常の講義形式科目
			2. 少人数ゼミナール
			3. 総合科目
			4. その他の科目
	言 語 文 化 科 目 I		
	言 語 文 化 科 目 II		
	外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 科 目		
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科 目 I		
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科 目 II		
	基 礎 科 学 科 目 I		
	基 礎 科 学 科 目 II		
	情 報 処 理 科 目 I		
	情 報 処 理 科 目 II		
専攻教育科目	低 年 次 専 攻 教 育 科 目		
	高 年 次 専 攻 教 育 科 目		

九州大学には〈総合選択履修方式〉といって、自分の専攻領域以外から、つまり自分が所属していない学部・学科で開講されている授業を履修するという独自の仕組みがあります。教養教育科目の授業は、〈総合選択履修方式〉の対象になっています。皆さん一人ひとりのカリキュラムの独自性は、学部の4年間をかけて履修する教養教育科目の授業の組み合わせにかかっ

ているとも言えるでしょう。もちろん、言語文化科目や健康・スポーツ科学科目、あるいは他学部の専攻教育科目の授業を体系的に履修することによっても独自のカリキュラムができあがります。

九州大学で卒業に必要なだとされている教養科目の単位数はどの大学よりも少ないのですが、皆さんの自主的な選択を尊重しているからです。

「やる気」と「はやる気」

多くの皆さんは、いよいよ専門の勉強ができるぞという期待をもって入学してきたことと思います。その通りです。各学部が、より高度な専攻教育に備えて工夫した低年次専攻科目の授業を1年次から履修するようになっています。しかし、入学早々からもっとたくさんの専攻教育科目の授業を受けたいと思っている人も大勢いることでしょう。専門領域をしっかりと修めることは、自分が拠って立つ足場を強固なものとするにちがいないから、早くから取りかかりたいという意気込みは、とても大切です。ただし、この意気込みが、教養教育科目の履修は無駄なのではないか？ 目的を達成するうえで遠回りになるのではないか？ といった思いにつながるなら、せつかくの意気込みは「はやる気」となって空回りしかねません。意気込みを、きちんと「やる気」として結実させるには、社会の九州大学の教育に対する要請を知ってもらう必要があるかと思っています。

九大生への社会的期待

この学部なら自分が関心を寄せる専門の勉強ができるにちがいないと考えて受験学部を選択したことと思います。その際、皆さんは将来の自分にも想いをめぐらしたわけです。しかし、二十歳前後で将来を決めるなんて無茶だという考え方もあります。学問・研究の本質は、取り組んでみて明らかになるからです。

社会は加速的に高度化し複雑になっています。そうであるからこそ、皆さんはできるだけ早く高度で複雑な専門性を修める必要があると思うのでしょうか。高校までは、用意されたステップを踏むことによって、より難しい問題が解けるようになるという勉強をしてきましたし、同一問題による入学者選抜という競争がありましたから、そう考えるのは無理からぬことです。大学では、すでに正答がわかっているけれども解法が難しいといった問題を解くための勉強だけでなく、未解決、あるいは、まだ着手されていない問題を発見する力を培うための勉強が加わります。問題発見の力とは、観察力であったり洞察力であったりします。

社会がやがて九州大学を卒業する皆さんに求めている力は、専門性にかかわる基礎知識は当然のこととして、何よりも問題を発見する能力です。さまざまな専門性をもつ者が力を合わせて未解決の問題に取り組むプロジェクト・チームのリーダーとしての活躍が期待されています。これからの社会のリーダーは、人柄が

良いだけで務まるものではありません。リーダーには問題の核心がどこにあるかを見出す力が必要ですし、チーム・メンバーそれぞれの専門性を理解していないと、さまざまな局面での確な判断ができません。皆さんが社会に巣立つ時には、専門家としてよりも、九州大学で学んだフレッシュマンとして評価されることを心に留め置いておく必要があります。

皆さんは、専門の勉強をしたいと思っていたとしても専門学校に進まずに、総合大学である九州大学に入学してきました。多様な専門領域の研究が展開されている総合大学の教官たちが協力し合って、全学教育科目の授業を担当することの意味を考えてもらいたいです。特に教養教育科目の授業には、皆さんを「手放すために手塩にかける」という意図があるのです。

■ 総合科目 ■

〈特徴〉 水曜は、前期も後期も、全学部の1年次生が六本松キャンパスにそろう日です。その4限目に、総合科目が並んでいます。総合科目の特徴は、一つの授業テーマに、複数の教官がそれぞれに独自の視点からアプローチする点にあります。オーガナイザー教官を中心に、これまでの授業経験を踏まえて毎年工夫を重ねている授業です。総合科目を履修する皆さんは、大学教育における、チーム・プロジェクトに参加すると言えるかもしれません。

(前期)

- ・ 社会と学問
- ・ 環境科学概論
- ・ 国際交流教育概論
- ・ 大学とは何かーともに考えるー
- ・ ラディカルなインターネット入門

-
- ・ 映画を通じて見るアジアと日本
 - ・ 大学とは何かーともに考えるー
 - ・ 映画の世界：比較作品論
 - ・ 地球の構成と環境
 - ・ リスクを科学する
 - ・ 現代社会と人権
 - ・ 女性学・男性学
 - ・ 核を考える
 - ・ ノマド論
 - ・ 水の科学

(後期)

〈内容〉 担当の講義回数が限られているがゆえに全力投球になりがちな授業についていくために、皆さんには、それ相応の集中力が求められます。授業内容を消化するには時間が必要かもしれません。後に、時には社会人になってから、「あっ、そうだったのか!」と思い起こされるような授業が総合科目の目指すところでもあります。

各総合科目の内容は、皆さんの手元に配布されている『平成13年度全学教育科目履修の手引き』（履修の手引きと呼んでいます）に書かれています。また、皆さんと一緒に授業担当教官が、これから活用を図っているシラバス・システムには、履修の手引きに書かれていない授業情報が現在進行形で掲載されます。

どの総合科目も、履修者の学部が混在していますから、皆さんがこれまた九州大学に独自のインターネット上のクラス交流システム（BBS）を活用して相互にディスカッションするなら、授業は交流の場づくりにもなります。

〈選択〉 例年のことですが、全学部の1年次生が、特に前期には、どっと履修を希望します。教室の収容能力を越える場合は、レポート提出など何らかの選抜がなされます。後期にも開講される総合科目がありますし、2年次以降に履修できる総合科目もあります。下手な鉄砲でも数打てば当たるといった聴講届の出し方は、その後のモチベーションに影響しますから、履修の手引きやシラバスをじっくりと検討したうえでの絞った選択が重要です。

■ 少人数ゼミナール ■

少人数ゼミナールの授業は、高校までと根本的に異なる大学での勉強の仕方そのものを体験的に学習する機会となります。1年次の後期までに、是非とも履修してもらいたい授業です。

〈特徴〉 少人数ゼミナールAは、九州大学を退官なさったばかりの先生方が担当する点で、他大学にない授業です。どの領域の学問にも、文献資料や研究データを、読んで、調べて、書いて、発表して、討論して、不断に再考し続けるプロセスが伴います。ゼミAでは、そうした学問・研究の基本的なプロセスを楽しみながらトレーニングします。立派な業績をあげた先生方が授業を担当なさいますが、孫の世代の皆さんに、難しい専門領域のことを教授しようとなさるわけではありません。皆さんが、自分たちよりも初々しく闊達

な好奇心の持ち主に直接接する授業です。

少人数ゼミナールBは、ゼミAやゼミCよりも問題を検討し考察する視点が明確だという点で、専門領域に一步踏み込んだ授業です。したがって、ゼミBの授業の中心テーマに興味や関心をもっていることが大切です。しかし、1年次生が学ぶわけですから、高年次に学部で履修するゼミとちがって、丁寧なスモール・ステップの授業です。

少人数ゼミナールCは、前期をCⅠ、後期をCⅡと呼んでおり通年で開講されます。ゼミAやゼミBと比較して、履修学生が授業を創りあげるといふ色彩が大きくなります。ゼミCには授業テーマを学際的に採り上げるといふ特徴があります。学問・研究はますます学際的になってきています。現在社会の問題は、いくつかの専門領域が協力し合ったところで解決がもたらされます。興味や関心の異なるいろんな学部の学生がチームとして研究課題に取り組むということ自体が学際的アプローチになっています。

〈内容〉 各ゼミナールの大きな授業内容は、履修の手引きやシラバス・システムに掲載されていますので、参照してください。簡潔に記述されていますが、自分がそこから何を読み解くかが肝心です。少人数ゼミナールの授業がどのように展開するかは、皆さんの質問や発表に負うところが大きいのです。

〈選択〉 皆さんそれぞれの関心事に近いテーマが採り上げられる授業を選択することになるでしょうが、どの授業でも、先入観をくつがえす新しい知識、学問・研究の広がり、とある一人の研究者、そして、学部の異なる学び仲間との予想しなかった出会いがあるはずです。不意の出会いを見落とさないためには、授業選択において自らの関心事を確かめ直すプロセスを経ることが不可欠に思えます。どの授業でもいいと、漠然としたままの選択も先行き不安です。

受験学力よさらば

受験という目的をもって勉強をしていた頃の自分の頑張りがなつかしいという初年次生がいます。「センター試験は何点だった」と尋ね合ったりしています。そんな皆さんにとって、教養教育科目の授業は、最初は正体不明かもしれません。しかし、一人ひとりがこれから追求していく課題を探し当てるきっかけを提供してくれる授業が並んでいます。取るに足らない課題だと思われても、その課題の追求が真摯であれば、必ず専門の勉強の土台になるから不思議なものです。

(平成12年度前期実施)全学共通教育科目

「学生による授業評価」の結果について

全学共通教育自己点検・評価専門委員会

平成12年度に全学共通教育科目の808クラス（基礎科学科目の実験と健康スポーツ科学科目の実習を除く）の授業を対象に、学生による授業評価を実施しました。担当教官が授業の場で回収しなかったことが影響したのでしょうか、評価用紙の提出率は47.7%でした。しかし、授業を受けて良かったという感想にも、授業の改善を求める回答にも、ちょっとしたレポートなみの詳しい記述が数多くありました。

結果は、授業クラス間で相互比較できるように数値一覧として整理し、記述回答も添えて、後期が始まる前に授業担当教官にフィードバックしました。

▼ 授業を履修してよかったと思うこと

授業クラス全体で、授業への肯定的評価は、次のようになりました。

a) 授業内容に満足した	33.7%
b) 授業への準備がよくなされている	21.2%
c) 学問への理解が広がり力がついた	31.8%
d) 勉学に対する意欲がわいた	15.7%
e) 先生への教育への熱意が伝わってきた	26.0%
f) その他	8.4%

肯定的評価のどの項目にもチェックのない回答用紙が数多くありました。授業クラスによっては、とても厳しい評価がなされました。ある授業を肯定的に評価する場合は、複数の項目をチェックすることが、a) やc) の30%を超える値をもたらしています。

授業への準備がよくなされていると25%以上の回答がありながら、誰も授業内容に満足しておらず、誰も勉学に対する意欲がわかなかったクラスもあります。勉学への意欲を培うにはどんな授業が有効なのかが、授業担当者に課せられた大きな課題の一つです。

▼ 授業改善で要望したい項目

授業クラス全体で、授業改善の要望は、項目別に、次のようになりました。

a) 授業のテーマ・目標を明確にしてほしい	10.6%
b) 科目の共通授業概要を尊重してほしい	1.6%
c) 授業内容をもっと易しくしてほしい	16.4%

d) 授業内容をもっと精選してほしい	9.3%
e) 授業の進行をゆっくりしてほしい	16.4%
f) 理解度を把握して授業を進めてほしい	18.5%
g) 理解できるように説明に工夫がほしい	19.5%
h) 授業の準備をもっとしてほしい	3.0%
i) 授業計画（シラバス）を示してほしい	3.2%
j) 成績の評価基準を示してほしい	12.8%
k) 声が届くようにしてほしい	7.2%
l) 読みやすく板書してほしい	17.1%
m) 休講を少なくしてほしい	0.7%
n) 授業の開始時間を守ってほしい	1.6%
o) その他	15.2%

科目間よりも授業クラス間で、改善要望の項目に、ずいぶんと大きな違いがありました。

コア教養科目の領域別では、「文芸と人間」「歴史の認識」「異文化の理解」においてa) が20%を超えました。基礎科学科目でも30%以上が169クラス中16クラスもありました。シラバス・システムにも掲載されている共通授業概要を参照し授業に反映する必要があります。

項目c) が「人間と文化」(47%)、「基礎化学結合論」(46%)、「基礎化学熱力学」(53%)となりました。f) やg) など理解にかかわる改善要望項目でも、おしなべて哲学や化学の授業が難しくわかりました。高校までに履修した教科の内容と関係がありそうですが、大学で新たに学ぶ概念の形成をどのように促すか、授業のあり方が問われる課題です。もっとも、授業が難しく理解が困難であったとし、かつ、努力をしなかったとしている回答が数多くありました。高いハードルをどう乗り越えるかは、履修者と授業担当者が協同する必要があると考えます。

声が小さかったり休講が多かったりする場合など、授業担当者に直接要望してほしいと思ったりします。

今後ともよろしく

「学生による授業評価」は、授業を改善するうえで具体的な指針が得られるので、教官にとって、恐いながらも楽しみでもあります。

合宿授業

フィールド科学研究入門について

森に触れてみませんか？

農学部附属演習林

フィールド科学研究入門では、九州大学の森林教育研究フィールド（演習林）を活用し、体験学習や現地調査に基づいて、人間と自然との関わりについて学びます。自分たちの足で、手で、目で、耳でフィールドを体感し、考え、議論することに主眼を置いています。

1. 物質循環プログラム（2単位）

森林は、水・熱・物質循環に大きな役割を果たしています。物質循環プログラムでは、福岡の森を歩き、観察した上で、日射や熱放射、気温や湿度、土壌水分や二酸化炭素濃度、光合成や蒸散などの環境要素を自分で測り、森林と環境との関わりについて考えてもらいます。プログラムを修了した時には、一方通行で得る情報と、自分で測り・考えて得る知識とのギャップを感じることでしょう。

日 程：7月下旬（4泊5日）

場 所：福岡演習林（福岡県糟屋郡篠栗町）

受 講 者：約30名

参 加 費：8,000円程度（食費、宿泊雑費）



成熟したミズナラ二次林で毎木調査

2. 地域資源プログラム（2単位）

宮崎演習林は九州のほぼ中央に位置する山岳地にあります。巨木の下を清流が流れ、動物が遊ぶ別天地を歩いて科学しませんか。テレビ・ラジオの入りにくい、携帯電話も通じない奥地山岳の生活に触れ、ムラを歩き、見て、触って、食べて、九州や日本の現実について考え、語り明かしましょう。

日 程：8月下旬（4泊5日）

場 所：宮崎演習林（宮崎県東臼杵郡椎葉村）

受 講 者：約20名

参 加 費：8,000円程度（食費、宿泊雑費）



プログラム修了、もう仲間です

3. 北海道プログラム（2単位）

景観とは？ 自然景観から都市景観に至るまで、人間の影響をほとんど受けていない景観から、人工的に創られた景観まで多様な景観があります。北海道プログラムでは、「景観」をキーワードとして、景観形成のプロセスを森林植生、土地利用、地形などの要因から科学します。ただ漠然と見てきた景観が、たくさんの情報を発信していることに気づくことでしょう。

日 程：10月上旬（4泊5日）

場 所：北海道演習林（北海道足寄郡足寄町）

受 講 者：約20名

参 加 費：64,000円程度（食費、宿泊雑費、交通費）

農業体験の勧め

体験的農業生産学入門

農学部附属農場

附属農場をご存じですか？ 九大には福岡市の東に隣接した粕屋町の原町農場（23.6ha）、篠栗町演習林の果樹園（8.3ha）および久住山の南の山麓に位置する高原農業実験実習場（16.8ha）があります。農場では昨年から全学部の1年生を対象とし、農場の施設を利用した「体験的農業生産学入門」という、合宿形式の授業を始めました。

授業の狙いはタイトルの通り「体験すること」です。昨年は「稲刈り」、「メロンの管理」および「乳牛・鶏の管理」を中心に実習と講義を行いました。また、普段食べることの出来ない様々な品種の米、メロン等の果物や農場の牛乳で作ったソフトクリームの試食をしました。体験を通して自分と農業、食糧、環境問題との関わりについて考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

開催時期 10月上旬

開催場所 農学部附属農場（福岡県糟屋郡粕屋町）

募集時期 9月中旬 **募集人員** 約30名

参加費用 4,000円（食費、宿泊費）

科目・単位 個別教養科目として2単位



第26回 九州地区国立大学間合宿共同事業

合宿共同授業は大分大学、鹿児島大学、鹿屋体育大学、九州大学、九州工業大学、九州芸術工科大学、熊本大学、佐賀大学、長崎大学、福岡教育大学、宮崎大学、琉球大学の12大学から、学生95名、教職員40数名が九重の研修所に一堂に会し、メインテーマのもと、5日間寝食を共にしながら、学び、論じ、交流する授業です。

メインテーマ 循環・共生型社会をめざして

学生フォーラムテーマ 人間・共生のライフスタイルとは

開催期間 2001年8月24日（金）～28日（火）

開催場所 九州地区国立大学共同研修所

募集期間 4月25日（水）～5月11日（金）の予定

募集人員 12名

参加費用 12,000円（九重までの交通費を含む）

事前学習会 週1回、計9回程度行う。

講義についての事前学習、学生フォーラムテーマについてのレポート作成、懇親会での出し物の練習など。

科目・単位 個別教養科目（総合）として2単位

応募先 教務掛（六本松地区）

※ 各合宿授業の詳細は公用掲示板で知らせます。



合宿授業

こ ん な 授 業 み つ け ♪

第25回 九州地区国立大学間合宿共同授業(2000. 8. 25~29)

九州地区国立大学間合宿共同授業は、九州各地の大学間で一つのテーマのもとに、討論を交わし、考えを深めていく試みです。2000年のメインテーマは「安全保障と平和」。九州大学からは学生12名と教職員4名が参加しました。



1. 池の亀さんのつぶやき (行く前)

あれは4月だったか、5月だったか……。友だちが合宿授業に応募するといった。「合宿授業？ それなに？」と思いつつ友達の話を知ると、他大学の人たちと一緒に合宿し講義を受けるというものだった。入学してで希望に満ちていた私は「他大学の人と友達になれるかも」という期待を胸に申し込んだ(この期待がどうなったかは他の人のを読んでください)。

選抜やら何やらあったが、何とか私は合宿授業に行けることになった。合宿メンバーの初顔合わせ。ドキドキ。知り合いが一人もいなかった私は緊張していた。なのに先生が「フルーツバスケットしようか」と言った。何故に？ なにゆえ？ と思ったが、この「フルバ」、ちょっと特殊で、鬼になった人は自己紹介するというもの。ついでに一番多く鬼になった人は世話役(リーダー)になるというオプション付き……。めでたく私が5回も鬼になり、世話役に。そうか、どんくさいのか私は。



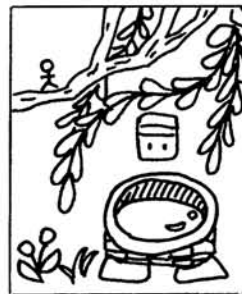
注意！：合宿授業は合宿のみではありません。毎週水曜5限に集まり、テーマについて話し合い、レポートを作成しました。その内容は……！ 以下省略。

2. 樹上の人によるもの(風景描写)

村雨の露もまだひぬまきの葉に

霧立のぼる秋の夕暮れ

秋というには少し早い時期だったものの、蛸の音が響き、雨上がりに虹をみていた時の涼しい風は、福岡よりも一足早い秋を感じさせてくれました。



合宿は九重で行われます。山の家とそれに隣接する宿泊棟を利用し、期間を通して山ほどの菓子類と温泉の満喫が約束されています(笑)。食事もおいしいです(注：諸説あり)。とにかく、昼食には果物、夕食にはデザート付きで、温泉とセット

で特に女性にお勧めです。これに睡眠をつけるつけないは本人次第。が、なにぶん他大学の人と友人関係を築く機会であり、

あけぬれば暮るものとはしりながら

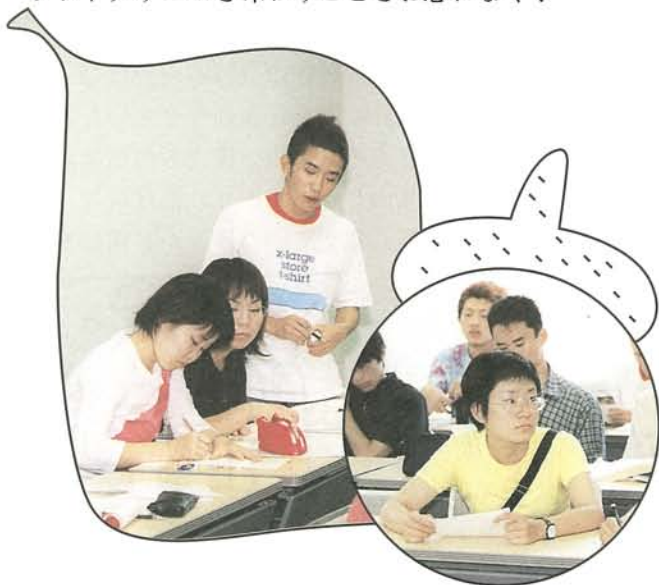
なおうらめしき朝ばらけかな

と口づさんだ方も多いご様子。晴天にめぐまれば、ありし日のペルセウス流星群の夜よりも沢山の流れ星の下、あたたかく友情を深め合えるでしょう。早寝早起きを実践し、温泉散歩としゃれこむのも一興、研究棟敷地内の川の水は……温かです。是非お確かめあれ。

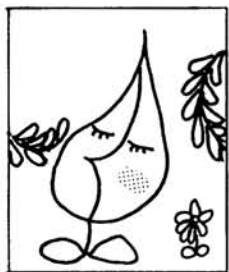


合宿授業

最後に、蛇足ながら、登山班は下山時に牧ノ戸峠でソフトクリームを味わうことをお忘れなく！



3. 人見知りさんの独り言（山の家）



驚きの余り言葉を失うというのはああいうことをいうのだなあと考えるほど、それを見た衝撃は大きいものだった。「山の家」この3文字の言葉から一体どんなものが連想されてくるだろうか。

この「山の家」なるものは、九重研修所からさらに奥に進み体育館をぬけた所にひっそりとたたずんでいる。1階建ての建物で、小さな部屋が5、大部屋と大きな部屋が3である。真ん中にはTVと椅子がおかれた談話室も存在する。それだけ聞けばたいそうなしろものだが、そう話はうまくいかない。全館木造で築30年は経っているのではないかと（築70年 編集委）と考えるものだったからだ。

「山の家」には温泉がある。風呂についてはそんなあいまいなことを初めに聞いていた。確かに温泉は在った。だがはたしてあれが温泉なのか、という程度のもので、肩こりにもリウマチにも効かなさそうな感じだった。

研修棟の方に宿泊できた運のいい人を除いた30人くらいの人がこの「山の家」に泊まったわけだが、何日かたつうちに部屋のぼろさのことなどみんな忘れて楽しく飲んで騒いでいた。それも「山の家」だったからできたのかもしれない、そう考えると「山の家」も捨てたもんじゃないと思う。

4. 南の島からの電報（講義①）

合宿授業では学生フォーラムや登山など僕自身得るものが多かったのですが、ここではその中でも各大学の先生がされた講義について書こうと思います。

合宿での講義は、大学の普段の講義と違って単位というもののやカリキュラムの拘束がないため、自由な雰囲気の中でされたと思います。受けた3つの講義のどれもが大学における教科書を用いた一方的な講義とちがいが、学生の人数が少なかったということもあって、また自分の知らなかったトピックを提供されたこともあって、非常に充実したものでした。特に、長崎大学の戸田先生の講義の中に出てきた、湾岸戦争の際イラクに大量投下された劣化ウラン弾の被害には驚きました。

結果的に、合宿授業は九州の他大学の他学部の人と様々なことについて語り合うことができ、大変面白かったと思いました。



5. 野原のお花さんのコメント（講義②）

今回のメインテーマ「人間の安全保障と平和—20世紀から21世紀へ」に基づいて、全部で7つの講義があり、基調講義以外の6つの講義から3つ選択するので、計4つの講義を受けました。



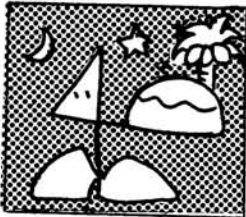
メインテーマが含蓄深いものだったため、各題目も幅広い分野に渡ったもので、どれも魅力的では在るものの、ちょっと小難しいような感じも在り、話題についていけるか不安もありました。実際の講義では、確かに自分の知らないことも色々出てきたものの、他の人がそのことについて発言している姿を目にして刺激になり、私ももっといろんなことに関心を持つべきだと強く感じました。

人間の安全保障と平和に関する諸問題は、普段新聞の端々で目にするものの、あまり深刻に考えないものです。今回、それをじっくり考える機会になり、何より他の人の意見まで聞けたことが貴重な体験だったように思います。今回のグローバルなテーマを見た時、こんな大きな問題について私たちが話し合ったことで何になるのだろうと、始めは内心思っていたのですが、まずは一人一人問題意識を持って考えることがいい方向に進み始める一歩なんだと考えを改めさせられる有

合宿授業

意義な講義だったと思います。

6. 日の出づる島から (23時以降の謎)



そうですね、消灯は確かに22時です。我々、みんな小、中、高とやって来たように消灯時間に寝る人はいません。小学校では枕投げ、中学校では誰がクラスでかわいいか、高校では告白

と、こういう時は決まって夜が楽しみでしたよね？

この合宿は人数が多くて、しかもなかなか知り合えない他校も合同です。だから講義ぶまりの昼にはできなかった交流会が始まるわけです。合宿が終了した時どれくらい友達になっているか、これは22時以降で決まるのでは、と思うくらいで、我が九大には1日1～2時間しか寝ずに交流をはかっていた奴もいますよ。

みんな何をするかって、それはいろいろやってて全部は分からないので、一部人気スポットを紹介！

*夜空を見る……サイコーですよ。僕は天の川を見たのは生まれて初めてでした。あれって星のかたまりというよりも白い帯のようなんですね。流れ星多数。

*部屋で交流……なんていうかけっこう合コン状態なんてのもあったような……。でもだいたいトランプしたり、語り合ったりとかじゃなかったかな。

*ひたすら酒……いわずもがな。一番多かったのでは？

というか、基本的に交流ですね。寝静まるのは2～3時くらいですが、一部タフガイたちは起きて交流をはかり続けます。次の日の講義が睡眠時間って人も…最後の夜はもうかなり全員が集まって、外で飲みつ

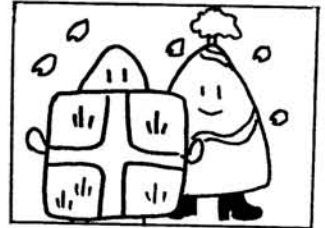


つ、話しつつ、でした。

7. お山の段々畑より (登山)

僕たちは合宿の4日目、久住山 (1787m) に登ったその日、僕は気合も十分で胸をときめかせていた。しかし、天候とは無情なものである。僕たちの出発直前になって急に雨が降り出したのである。僕は最初、すぐに晴れるだろうと軽く考えていた。しかし雨はますますひどくなるばかり。

雨具を持っていなかった僕はビニール袋から手と頭を出した情けない姿で登るはめになってしまった。加えて山ではガスが



発生して何も見えず、濡れた体に強風が当たって体温が奪われ凍死しそうになった。

しかし、このような状況でも登山中に他大学の友達と話をし交流を深めることができたし、最後にはガスが晴れて美しい深緑の山を見ることができたし、それなりに実り多い登山であった。

8. お宮の守衛さんの話 (交歓会①)

研修合宿最後の夜に行われた交歓会では、どの大学もかなりきちっと準備した出し物を披露してくれました。制服を着た女装あり漫才あり、クイズ大会あり、手作りの衣装でモーニング娘を3曲踊ったり。本場の琉球音楽生演奏の中で、本場の琉球舞踊を見せてもらった時はとても感動しました。

ところで私たちが何をしたかという、モノマネです。私たちは事前に出し物があることを知らされておらず、ほぼ即席でした。メンバーの中に巨人の上原選手に似た人がいるので、その人が真似して、他の人は周りで歌を歌っていました。はっきり言って、実は絶対すべるんでは……と思っていました。が、なんと大好評。会場は笑いの渦(?)でした。

最後の夜にあったということで、かなり盛り上がりました。その日の昼は雨の中の登山で皆かなり疲れていたにもかかわらず、交歓会終了後も遅くまで語りました。九州各地から集まって、たった5日間生活を共にしただけですが、とても仲良くなることができ、いまでもEメールなどで連絡をとりあっています。もう一度、同じメンバーで合宿したいな……と思ってます。

合宿授業

9. 夏の思い出～記者A（交歓会②）

九州各地の大学生が一堂に集まるこの合宿の魅力は、活発な討論とその雰囲気を反映した他大学との交流だ。特に交歓会では大学ごとの演し物がある。「自分が出演する」という緊張感もあり、皆大いに盛り上がった。

交歓会は夜の7時ごろから食堂で始まった。大学ごとに分かれて座り、テーブルの上にはジュースやお菓子が所狭しと並んでいる。どうやら飲酒は未成年が多いため認めない模様だ。さっそく始まった大分大学の演し物は「女装」。「カンカン娘」系列は今も健在のようだ。長崎大学は女性達が人気のアイドルグループ「モーニング娘」に扮し、歌と踊りを披露。アラビア風の水色の衣装に統一し、手拍子の中、テレビと同じように踊る姿に観客は大満足だ。長年この合宿に参加してきた長野助教授も「長崎大学は毎年すごいが、今年は（いつにもまして）すごいねえ」とレベルの高さに驚きを隠さない。ちなみに去年は蛇踊りだったそうだ。続く熊本大学、鹿児島大学は共にご当地クイズ。地域性の豊かさが楽しめるのも交歓会の醍醐味だ。また、佐賀大学は佐賀県の歴史をヒップホップ調で話すという心にくい演出。堅苦しい雰囲気を崩し、若者らしさをアピールした。一方、九州大学の演し物は「モノマネ」。鹿屋体育大のコントと同じく話術も立派な芸になることを証明した。最後の琉球大学は三味線を使った沖縄の伝統的な踊り。畑仕事をモチーフとしたもので、踊り手達の着物姿がぴしっとして美しい。最後の演し物だったため、全員が踊りの輪に加わり、この合宿に参加できた喜びを体全体を使って表現した。

「またみんなで集まろう」と参加者がお互いに笑顔で話す中、交歓会は終了した。



10. 雪山の竹は語る（その後）

合同合宿後の他大学との交流に一番貢献してくれたのは、何とんでも大分大学のパソコンに詳しいM君が作ってくれた合宿仲間専用の掲示板です。パソコン（携帯電話でもいいんだけど）を使えば遠くにいる他大学の友人と簡単に交流することができるし、大学が違う、つまり住んでいるところが違うと以外と面白いことがあったりします。例えば、同じ意味の言葉でも方言によってはぜんぜん違った言い方だったり、僕が福岡は寒くて大変と言っている時に、沖縄の友人はまだ半袖なんてこともあるのです。

このようにパソコンを使って掲示板で話したり、メールを送りあったりするのは簡単ですが、大学どうしが遠いだけあってなかなか合うのは難しいことです。それでも僕を含めた数人（通称 企画課）が中心となって、遊びの計画を立てて掲示板で皆に呼びかけたりすると、結構遠いところからも来てくれたりします。この間スペースワールドで遊ぶ計画を立てたときには、驚くべきことに熊本や大分や宮崎からも友人が参加してくれたのです。おかげで当然このスペースワールド計画は大成功でした。他にも福岡の大学（九大、福教大、芸工大、九工大）だけで集まって遊んだこともあるし、九州大学だけで集まりましたりもしました。どの企画も予想以上に楽しかった覚えがあります。

僕がこの合宿授業に参加して一番良かったことは、友人が多くできたことだと思います。



♪このように、私たちは12人12様、それぞれにこの合宿授業を楽しんできました。各章のなかになぜかある矛盾（飲酒禁止なのに飲み会など）は気になさらず（笑）。この授業（九州地区国立大学間合宿共同授業）は1年生から4年生まで全学年で受講が可能です（1,2年生優先 編集委）。今年は皆さんが、是非参加してみてください。

2000年合宿参加者

中原 亜矢(教)	宮前奈央美(教)	井上 孝一(法)
正岡 麗子(法)	山田 直樹(経)	樫本 薫(理)
寒竹 重史(理)	角南 隆史(医)	池田 真澄(工)
東島 誠(工)	坂口 晃敏(農)	柳川 綾(農)

空き缶と弁当箱のリサイクル

工学部2年 ^{さ が ら}相 良 ^{ひろ}博 ^き喜

はじめに

リサイクルという言葉は、もはや近年個々の家庭にまで浸透し、それに対する意識も高まってきていると言えるでしょう。自分自身も環境問題に興味・関心がありました。九大生にも同じく環境問題、リサイクルに関心がある人は多いと思います。しかし、自分は実際に興味はあっても、特にそのような活動に参加したことはほとんどありませんでした。その後、大学生協の学生スタッフである組織部に入部し、生協の活動についていろいろ学ぶ機会を得ました。そして、そこで生協でもいろいろなリサイクル活動を行っていることを知った一方で、その活動があまりにも知られていないことも知りました。そこで、なにか組合員に生協のリサイクル活動について知ってもらう機会を作れないかと考え、企画を発案するに至りました。この企画とは、日頃行われている生協のリサイクル活動を、人が多く集まる学祭の期間を使って、学内外を問わず多くの人に知ってもらおうというものです。



最初の取り組み

生協が主に行っているリサイクルとして、空き缶、割り箸、プラスチック弁当箱などがありますが、今回、主に特集したのは空き缶とプラスチック弁当箱のリサイクルについてです。空き缶回収は一般的に行われているリサイクルの一つでしょう。これがどこで回収され、どういう過程をへてリサイクルされているのかということを調べるために、東区にあるS.Cマテリアルという工場に見学に行きました。この工場は一般に廃材から鉄などリサイクル可能な部分と不可能な部分にわけ作業をしていて、敷地面積が約3000坪のかなり大きな工場です。

この工場にはいって、まず目をひいたのは大きな瓦礫、というか、ごみの山でした。冷蔵庫の一部のようなものや車の部品とかが、細かく碎かれ、山積みになっていました。まさにごみの山。リサイクルって言うのは、もっとクリーンなイメージしか持っていなかったもので、ちょっと今までの常識を覆された気分です。もっとも、見学に来たメインの理由は空き缶の分別作業なので、とりあえず見に行きました。分別は3段階に分かれていて、まず、袋に入れられている空き缶を袋から出し、袋だけを取り出す機械がありました。その後中身はベルトコンベアーで運ばれ、人の手によって大きなごみを取り除かれます。

ここで一番驚いたのは、雑誌とか結構大きなごみが平気で捨てられていることです。空き缶用のごみ箱は口が丸くなっており、空き缶以外は入れにくくなっています。もっともペットボトルは簡単に入りますが。おそらく、無理やり入れたのでしょう。リサイクルの最大の課題は人のマナー向上にあるのではないかとこのとき深く感じました。その後、磁石をつかい、スチールだけを集め、アルミ缶だけを弾き飛ばす機械を使って分別していました。そうやって分別された、空き缶類ですが、多くの費用と人の手をもってやっとここまでいたることができることを学びました。S.Cマテリアルの職員の方も、分別が行われていれば大幅な手間ははぶくことができるとおっしゃっていました。

次に生協でお昼に売られているお弁当の容器のリサイクルについて調査をしました。この弁当箱の容器がリサイクルされていること自体をしらない人も多いのではないのでしょうか。生協の方のお話では、ちゃんと洗ってリサイクルボックスに入れないとリサイクルされないのだそうですが、ほとんど知られていないのが現状です。ちゃんと洗って入れてあっても、あとのものが汚いまま入れられていたとしたら、きれいなものまでだめになることがあるそうです。きれいに洗浄されたトレイはエフピコと言う工場に運ばれ、粉碎、洗浄、再形成されて、再度トレイとして生まれ変わります。



学祭当日

これらをまとめて、ブースとし、学祭期間中に六本松生協購買部前にて展示をしました。それと、エフピコから頂いた、リサイクル工程をわかりやすく説明したビデオがあったので、それを上映しました。人通りがあまり多くなかったのも原因ですが、あまり多くの学生が訪れてくれたわけではありませんでした。もとも学祭期間中はほとんどの学生が出店等に気をとられるため、このような発表で興味をひくことはなかなか難しいことだと思います。しかし、学祭に訪れた主婦の方などに多くの感想等をいただき、家庭内のリサイクルへの関心の高さを感じました。



現在の状況とこれからの展望

現在、九州の生協のある大学の環境学生委員会では、九州全体が全体としてリサイクル活動を推進しているという動きがあります。九州全体の大学で言えることですが、前に述べたようにどんなにいろんな活動を行っていたとしても、組合員の側にはあまり知られていないのが現状です。こうしたリサイクル活動が身近に行われていることをもっと知ってもらうために勉強会や、リサイクル工場ツアーなど企画していきたいと思っています。それに、他の九州の大学でもペットボトルの回収、リサイクル、紙コップのデポジットなどを行っているところがあります。しかし、リサイクルすることにより、原料から新しくつくるより、余計なエネルギーを使用する場合があります、コストの面でも問題が多くあります。そのような点からみても今後はリユースを進めていく必要があります。学祭では、組織部の仲間とフリーマーケットを出展しました。このような活動も無駄をなくすという面で大きな役割をはたすのだと思います。これらの活動を通して、リサイクル活動の難しさと大切さを感じました。

サークル紹介



尋常じゃない：サイクリング同好会

経済学部2年 ^{たま}玉 ^や屋 ^{ひろ}宏 ^{ゆき}進

“尋常じゃない!!” 私が入部したての頃は、いつもそう思っていました。先輩方の話を聞いていても、驚きの連続でした。「あんたら何やってんの……。」とつっこみたくなるほどです。

尋常じゃないと言えば、一回生の夏休みの企画も尋常じゃありません。「富士山ツーリング」福岡から富士山へ向けて、自転車のみをつかって行くのです。つっこみたくありませんでしたか？ それとも、目が点になりましたか？ 大丈夫!! それが普通の反応です（それじゃあ、俺らは変人か?）。まあとにかく、変人?である僕たちは、富士山へ向けて出発したのです。もちろん、ルートもメンバーも自由です。

富士山ツーリング

ツーリング中、さまざまな体験をし、数えきれないほどの思い出ができました。車や電車だと体験できない人々との触れ合いや感動。充実した日々でした。でも、やっぱりつらい!! 富士登山の時なんか、私は半分強制、半分義務で登っていました。「福岡に帰るために登る」そんな心境でした。でも、それはそれで楽しくて、頂上に着いて日の出を見たときなんか、とても感動しました。今までの苦勞が報われたと思いまし

た。何だかんだいって、「富士山ツーリング」は、私にとって最高の思い出となりました。（だからといって、二度とする気はないけど……）

思い出づくり

皆さんも、最高の思い出をつくってみませんか。ツーリングは、きつくて大変だというイメージがあるかもしれませんが、大丈夫。速さを競うレースとかは別ですが、ツーリングは、何といても誰でも気軽にできるスポーツです。体力に自信のない人でも、女性の方でも、心配はいりません。競争ではないので、ゆっくりと自分のペースでいいのです。目的地に着いた時の喜び、その過程でのいろいろな体験や発見。おもしろさは、私が保証します。しかも、活動内容は、企画に参加するだけで、練習などはなく、気楽でいられます。興味のある方、詳しい話を聞きたい人は、気楽に部室をお尋ね下さい。または下記のアドレスにアクセスして下さい。

ホームページ

<http://rcweb.rc.kyushu-u.ac.jp/~cycling/index.shtml>





(少人数ゼミナールB)

パソコンで結晶構造を調べる

いし だ きよ たか
石 田 清 隆

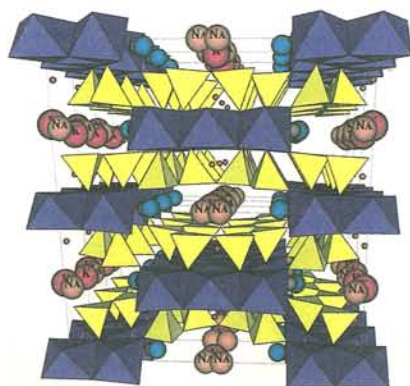
実験データの解釈に行き詰まりいわば暗中模索（暗中無策と言うべきか）・五里霧中におちいっているとき、もう30年以上も前になるがある受験雑誌のコラムに「かすか（微）にわかるのが微分で、わかったつもり（積）になるのが積分」というコントがあったのを思い出す。実際には、高校・大学時代に習った微積分ほど簡単明瞭で楽しかった思い出は少ないが、物理化学で習うエントロピーとか内部エネルギーとかの熱力学的な状態エネルギー関数や、3次元的な結晶構造などは理解が困難なものであった。白状すれば、筆者はその専門の鉱物でもそれらの熱力学的パラメータと結晶構造のつながりはなかなか理解できなかった。

ところが最近さまざまな結晶構造をプロットしてそれを意のままに拡大縮小したり回転して眺めることができるパソコン・ソフトを使って見て、3次元的な結晶構造の理解はそれこそ霧の晴れる愉快を味わった。そこで11年度から開講している少人数ゼミB“結晶構造を調べる”を12年度後期からパソコンを使って結晶構造を調べる内容に発展させた。受講者は1回目でそのソフトを使い慣れ、2回目以降には図に示すような複雑な構造も描けるようになって若い学生諸君の頭脳の優秀さに今更ながら後生畏るべしと感嘆しているところである（図a, b）。ソフト（Mac版）は大学教育センターのパソコンにインストールして頂いている。無機・有機を問わず結晶性物質の結晶構造を容易にプロットして調べることが出来るので、受講者ばかりでなく広くその使用をお勧めしたいと思う。

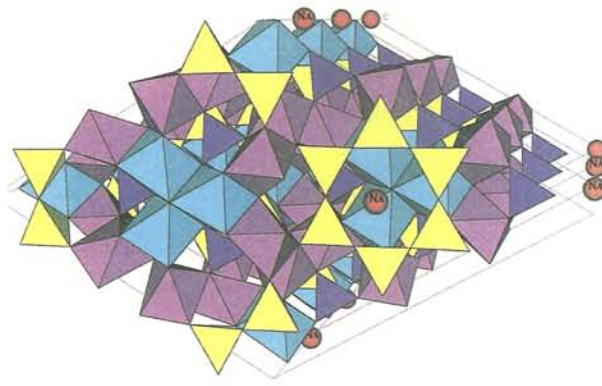
入力に必要な項目は、プロットしたい結晶の結晶系（立方、正方、斜方、六方、菱面体、単斜、三斜）、単位格子（単位胞とも呼ぶ）とその中の原子の配列や対称性を規定する空間群、単位格子の軸長（ a, b, c ）とそれらのなす角度の軸角（ α, β, γ ）、原子の座標パラメータ（ $x/a, y/b, z/c$ ）、おおざっぱな原子のイオン半径である。これらの情報は結晶構造解析の論文には必ず記載されており、また結晶系や空間群はプルダウンしながら選ぶようになっている。

これらの入力が終わると直ちに結晶を作る単位となる単位格子が図示できる。単位格子の密度、任意の2原子間の結合距離、3原子のなす角すなわち結合角をポインターで指示すると表示される。各原子を分かり易くするため、配色を替えたり、単位格子の数を増やしたり、さらには陽イオンが酸素などの陰イオンに囲まれている場合は四面体や八面体などの配位多面体を作ることにもできる。各結晶軸で回転したり、マウスであらゆる向きに回転させて眺めることも出来、さらにはズームで結晶の中に入って調べる様な、ちょうど小さくなって人体の組織の中でミクロの探検をしている様な気分になることもできる。

また結晶の対称性（32の点群）を一目瞭然に示すステレオ投影図の作成、さらにはおおよその熱振動パラメーターを与えればX線粉末回折図の計算と出力、種々の方向から電子線を入れた時の電子線回折パターンの作成および解析など、発展したメニューも完備している。（比較社会文化研究院）



図a c軸方向からみた角閃石の結晶構造。
平田耕一君（工学部2年）作成



図b c軸方向からみた电气石の結晶構造。
平井健介君（工学部2年）作成

世界・日本

ケンブリッジ・北京・ミュンヘンで外国語を学ぼう —言語文化研究院・語学研修制度について—

言語文化研究院では、英語、中国語、ドイツ語の海外語学研修を行っています。概要は下の表にあるとおりです。実際に研修に参加した皆さんの先輩方が、海外語学研修の体験を radix に熱く語ってくれました。興味が湧いたらぜひ説明会へ！

	研 修 先	期 間	人数	研 修 内 容	説 明 会 そ の 他
英 語 研 修	ケンブリッジ大学 ペンブローックカレッジ	8月の4週間	50名程度	小人数クラスでの英語集中コース、英国文化の専門科目、ビデオ制作、ディナーパーティー、バス旅行、観劇、船遊び等々。	平成14年度研修の第1回説明会（平成13年度の参加者は既に決定済み）の詳しい日時・場所は4月中旬に掲示板に掲示。
中 国 語 研 修	北京言語文化大学	7月下旬～8月下旬	25名程度	午前中はレベル別授業、午後は授業の準備および買物・観光、週末は万里の長城見学や小旅行。	連休前に中国語担当の全教官が授業時間に研修の案内を配布。5月に旅行社との共催で説明会。7月に参加予定者を集めて中国事情と中国語の事前講習。
ド イ ツ 語 研 修	ミュンヘン大学	3月上旬から4週間	他大学の学生も含めて45名程度	3月上旬から2週間、午前中はミュンヘン大学での小人数集中授業、午後は街での実地研修。次の1週間は小都市と小さな村に分かれてホームステイ。最後の1週間は自由行動期間。	説明書を4月中旬から配布。説明会は5月末ごろ。夏休みの終わりに選抜試験があり、合格者には合宿を含む毎月1回の講習会、小人数勉強会等。

ケンブリッジ・英語研修

ペンブローックの門が重々しく開くと、中から現れたのは、日本の大学とはおよそほど遠い、思わず目を見張るような光景だった。手入れの行き届いた青々とした芝生と、色とりどりのあふれんばかりの花々、歴史を感じさせる、落ちついた趣の建物。ペンブローックの美しさを目にした瞬間、ここでの夢のような生活を約束されたような気がしたが、その確信は間違っていなかった。

ケンブリッジの学寮生活は快適そのものだった。美しい自然に恵まれた環境もさることながら、感激したのは、大学側のもてなしの厚さである。一人一人に広々とした贅沢な個室が用意されており、真新しい家具がそろっていた。食事は、量は多く種類も豊富で、いつも私たちの空腹を満足させてくれた。毎朝ベッド・メイキングがなされ、毎晩糊の効いた真っ白なシーツの中で気持ちよく眠ることができた。特に、チューターの方々はいつも楽しいイベントを企画してくれたり、週末の旅行の手配をしてくれたり、始終私たちの力に

なってくれた。実に至れり尽せりの待遇だった。授業は、先生方が丁寧に指導してくださったおかげで、とても分かりやすかった。特に、レクチャー・コースでゴシック小説の講義をしてくださった Guizz 先生は、ユーモアを交えながら非常に熱心に教えてくださった。ネイティブの授業なら九大でも受けているから同じことだと思っていたが、イギリスの文化や歴史について日本で学ぶのと現地で学ぶのとでは、受ける感慨がまるで違う。——川辺陽子（文3）



世界・日本

北京・中国語研修

昨年の夏、中国での語学研修に参加しました。授業は月曜から金曜まで午前中4時間、勿論すべて中国語で行われます。毎日新しい単語・文法を覚えて会話や聞き取りの練習をしました。私は大学に入学し、第2外国語として中国語を履習していて、その期間わずか1年半だったにも関わらず中国に行った為、最初こそ老師の話も理解できませんでしたが、日が経つに耳も慣れ、簡単な会話は充分にわかるようになりました。

授業で学んだ表現を使ってクラスメートと話したり、街で買い物をしたり、それが通じた時は本当に感動しました。通じなくても街に出て様々な人と話をするのは何よりも勉強になるし楽しかったです。

もちろん語学だけでなく中国文化に触れることができる太極拳や絵画の授業も行われ、また週末には寝台列車での旅行も企画されていました。私はそのうちの大同旅行に参加しました。訪れた数々の史跡でそのスケールの大きさに圧倒され、先人の技術に感動し、中国文化を肌で感じられる貴重な旅行でした。

中国での生活に慣れてくると一人でも外出できるよ

うになります。北京には大きな公園が多かったので、私は自転車でよく公園に行っては、風に揺られる緑の音とたわわに水を張った池の涼しさに心身共にリフレッシュされ、そんな中時間が経つのも忘れて物思いにふけていました。とても贅沢な時間でした。

中国で過ごした1カ月はあっという間でしたが、私の人生で最高の1カ月であることは間違いなく、人生観さえ変わったと言えるかもしれません。一生忘れないでしょう。自分の期待以上のものが得られる中国へ行ってみませんか？——安恒喜寿（経3）



ミュンヘン・ドイツ語研修

ドイツ語を学ぶ全ての人へ

私は決して忘れないだろう。この旅での時間の全てを。そして共に過ごせた全ての仲間を。

去年私は第17期生としてこの研修旅行に参加した。ここで得た多くの物、それはここでは到底書ききれない物ではない。ミュンヘン大学での2週間の語学研修、1週間ドイツ語圏での自主研修、そして田舎の村でのホームステイ1週間。その中で出会えた多くの人達、語学教官、同じユースに泊まっていたドイツの学生達、温かいホストファミリー、丁寧に道を教えてくれた全ての人、そして、別れ。ずっと時間を共有していたら情も移る。自然に涙が出てくる。そして再会を誓い、願う。まだ当時ドイツ語1年生の自分がドイツ語圏でこんな経験ができるとは夢にも思っていなかった。しかし叶った。誰にでもチャンスはあるということなのだろう。日本とは類型を異にする豊かな文化、芸術。日本を遥かに凌駕する環境政策、介護制度。それらを通じて新たに発見できる日本、そして自分。

長い人生、やろうと思えば出来ることは限らない。

しかし、今しか出来ないことは数少ないのではないだろうか。この研修旅行もその1つ。

この研修旅行を通じて知り合えた仲間は大学、学部、国籍さえも越えて大切な存在である。

radixが発行される頃、第18期生がドイツから帰ってくる。この旅を終えて一回りも二回りも成長したであろうみんなを迎えに行きたい。

——本田 幹（法3）



世界・日本

英語で授業を受けてみませんか

—JTW の講義へのお誘い—

現在九州大学には約70の国々から800名を越える留学生が学んでいます。その中に、1年間自国の大学に籍を置いたまま九州大学で学んでいる短期留学生がいます。九州大学は他の国立大学に先駆けて、平成6年からその短期留学生のための外国人短期留学コース“Japan in Today's World (JTW)”を留学生センターにて開講しています。

このコースでは、日本の文化・歴史、社会科学、工学、医学等の各分野について、本学の教官が、すべて英語により講義を行うというもので、国内はもとより海外からも高い評価を受けています。皆さんはこの講義が留学生以外の学生も受講（聴講も可）できることをご存知でしたか？

授業の内容の面白さはもちろんのこと、米国を中心とした外国人留学生達と机をならべることにより英語や世界に通用する考え方などを学ぶことも少なくないでしょう。また、これから海外への留学を考えている方も是非一度参加してみたいはいかがでしょうか。（現在九州大学には、交流協定を締結している海外の一流大学に学生を派遣する制度があります。本号の25頁を見てください。）

講義内容については、「全学教育科目履修の手引き」をご参照ください。なお、教室の広さの関係で受講人数が制限されることもありますのでご注意ください。

JTW 授業科目一覧（2001年4月～7月）

1. 「東洋と西洋の思想的対立」
納富 信留（人文科学研究院）
2. 「政治的リーダーシップの国際比較」
豊原 郁子（法学研究院）
3. 「国際取引法」
Paslav Pejovic（法学研究院）
4. 「ディベート：現在日本の争点」
井上奈良彦（言語文化研究院）
5. 「グローバル化時代の日本経済と企業」
水戸 考道（留学生センター）
6. 「近代日本史」
Cobbing Andrew J.（留学生センター）
7. 「日本のポピュラー文化・特論」
渡辺 守雄（九州国際大学）



JTW CLASS SCHEDULE FOR THE SECOND SEMESTER 2000-2001 (April 5, 2001 - July 25, 2001)

	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	
CLASS 1 (8 : 40—10 : 10)	Japanese		Field Study etc	Japanese		
CLASS 2 (10 : 30—12 : 00)	Special Issues in Japanese Popular Culture (Watanabe)	Ideas in the Making of the East and the West (Noutomi)		Political Leadership in a Comparative Perspective (Toyonaga)	International Business Transaction (Pejovic)	
CLASS 3 (13 : 00—14 : 30)	Modern Japanese History (Cobbing)	Debate : Controversies in Today's Japan (Inoue)		The Japanese Economy and Corporation in the Global Age (Mito)		
CLASS 4 (14 : 50—16 : 20)	Japanese			Japanese		
CLASS 5 (16 : 40—18 : 10)	Advanced Seminar in Japanese History and Society (Cobbing)			Advanced Seminar in Japanese Economics and Management (Mito)		

※Advanced Seminar は JTW 生のみ受講可。

君も世界へ翔たこう

学生の海外留学

多くの人が海外留学により、人的交流を深め、異文化における相互理解を高めるということは、国際社会で活躍していく上で重要なことです。

九州大学では1996年度から学生交流協定を締結している外国の大学へ学部学生を派遣することになりました。

海外留学を実現するには、留学目的、語学力、費用などの入念な準備が必要不可欠となるので、入学後の早い時期から目標をもち準備しておくことが大切です。

●交換留学はどのようなものか

学生交流協定は、大学に在学している学生を1年間を超えない期間、交換留学生として外国の大学へ相互に派遣するものです。また、大学の授業料は相互に不徴収とし、留学中の宿舎についても便宜を図ることにしています。

この派遣留学は、学籍上「留学」とし、留学先大学で修得した単位及び在学期間は、九州大学の卒業要件として取り扱われます。

交換留学には、①全学部生を対象として学生交流協定を締結した大学へ留学する場合と、②各学部が独自に学生交流協定を締結した大学へ留学する場合とがあります。①の留学先の問い合わせ等は学務部留学生課*です。②の留学先の問い合わせは所属の学生掛です。

※ホームページ参照 <http://www.gk.ofc.kyushu-u.ac.jp>

●学内の選考はどのようにおこなわれるか

交換留学の説明会が、6月中旬及び10月初旬に開催されます。また、10月中旬に留学申請書の受付、11月中旬に面接が行われます。具体的日時についてはその都度掲示します。

面接は、留学先国の言語で行われ「留学にふさわしい語学力があるか」「留学目的をしっかりと持ち交換留学生としてふさわしい人物か」を中心に行われます。

この面接の結果と在学中の学業成績を総合的に判断し、交換留学生を決定します。

●外国語はどれくらいできたらよいか

一般的には英語圏の大学では、TOEFL213点以上の点数をとることが必要とされています。また、これ以外の大学についてもそれなりの語学力が必要です。

●奨学金は支給されるか

文部科学省短期留学推進制度に基づく交換留学生に奨学金が支給されますが、対象が限られ少数です。私費で留学する場合には、資金計画をたてておくことが大切です。

●交換留学の問合せ先

学務部留学生課（箱崎地区留学生センター内）

電話 642-2143

●交換留学実績

留 学 先 大 学	97	98	99	00
延世大学校（韓国）	1	1	1	
クイーンズランド大学（オーストラリア）	1	1		1
ルートヴィヒ・マクシミリアン大学（ドイツ）	1			2
ロバート・シュマン大学（フランス）			1	1
ワシントン大学（アメリカ）	2	3	2	2
ライス大学（アメリカ）	1	1	1	1
ミシガン大学（アメリカ）	1	1	3	1
ウイスコンシン大学 マディソン校（アメリカ）				1
グローブシティ大学（アメリカ）				1
ベレア大学（アメリカ）				2
ケンヨン大学（アメリカ）				1
ガウチャー大学（アメリカ）		1		1

世界・日本

英語を超えた英語教科書

A Passage to English によせて

しば た ようざぶろう
柴 田 洋三郎

この度、「A Passage to English」大学生のための基礎的英語学習情報」と題して、九州大学出版会から待望の英語共通教科書が発刊された。A 4版 307ページという予想外の大部であり、従来の語学教科書をイメージすると、その外観、内容ともに全く別物と言えよう。編纂に当たられた言語文化研究院の教官の方々のご努力、またご協力いただいた多くの方々に深甚なる謝意を評したい。本書の刊行に至る経緯は、まえがきにある通り、英語の全学教育カリキュラム改革に伴って、導入された「英米言語文化演習1」という一年生全員が履修する大人数クラスの授業に用いられる。しかし本書刊行の意義は、単に語学教科書をこえて、もっと深いものがあると感じている。

5年前から教育担当となり、毎年総長とともに学生の声を直に聞く機会をもった。新入生との懇談会で強い希望として当初必ず出ていたのが、語学教育とくに英語にたいする要望であった。英語は大部分の学生にとって、すでに6年間既習しており、各人の多様な要望があることが大きな理由であろうが、同時に現今の大学における、教養教育への認識と理解の多様化も影響しているように受け止めた。

教養の定義は人様々であるが、単なる知識の集積ではなく、一つに個の確立、自己の相対化、つまり社会における自己の位置づけを認識し適切な知的振る舞いができるということがある。その点で教養教育の効果は決して性急に短期間で計ることができるものではない。逆説的には、学生時代にその真価が分かるようなものは本来の教養ではないと言切ってしまうことも出来よう。

個人的な体験で恐縮だが、米国留学の初日、研究室の教授に、その大学の創立者名から(16.3.6.1)“ロックフェラーのゴシック”とよぶキャンパス内の建物群を案内してもらった際、「今はもう彼らは手を引いたんだ」との説明に「彼らも金だけではどうしようもないものがあるとわかったんですね」と応じた途端の相手の破顔と、それ以降の当方に対する処遇に明らかな格段の相違が生じたのには驚いた。



House of Seven Gables

また休暇旅行で、故多久和新爾教授から英語の授業で教わったニューイングランドの文学史跡、House of Seven Gables, The Scarlet Letter(16.1.4.1)のSalemや、Concordの橋などを、同じクラスだった連れ合いと訪れた時には、人生を本当に豊かなものとしてくれた六本松時代の教育に心から感謝した。

一方で、日常ではいささかならぬ不便も経験した。簡単なものの名が出てこないのである。すし(10.2.1)の説明をするのに acetic acid(16.4.3.3; 酢酸)では、高級レストランにおける食事の会話としては、全く趣に欠ける。論文原稿の写真をはるノリをさがして paste, adhesive など研究室中を大騒動に巻き込み、glueで決着をみたのは、滑稽を通り過ぎていた。またアパートの賃貸交渉では、いくら辞書を引いても契約書の用語の意味するところが理解できず、彼我の社会経済構造の相違を、取調室のごとき支配人室で汗だくになって実感した。これは英語力よりもむしろ、契約社会での基礎知識欠如の問題かもしれない。

本書に学生時代に出会っていたら、どんなにか豊かな海外生活が送れたことだろう。ゲラ刷りを見たとき、構成がいわゆる英語教科書との先入観と違って大いにとまどった。たしかに、第二部では20章にわたって、文系理系諸分野から様々な内容のリーダー教材が適度にバランスよく配置され、これだけでも立派な共通教

科書の範疇に入ろう。圧巻は第一部である。なんと呼ぶべきか、ハンドブックというには厚すぎる、発音、文法にはじまり英語文化論、語彙の整理から学術用語まで、16章245ページにわたり、ぎっしり配列されている。辞書のような単純羅列と異なるのは、各項目が数文字で内容に応じて整然と分類配列している点である。とにかく、百聞は一見にしかず、是非手に取ってじっくりと御覧になり本書の中を歩き回っていただきたい。これを学生達だけに使わせておくには本当にもったいない本である。

第一部はざっと見渡したところ、内容的に4つに大別される。1-6章は基本的な内容で、ガイドとして工夫された標準的な語学テキストであろう。つぎに7, 8, 9章は、native speakersの執筆による英文で、本書の特色がはっきりと出ている。特に7章は14ページにわたり、電子メールの利用法と例文が懇切丁寧に解説されている。日々海外とのメールのやり取りに苦労している身には具体的で大いに参考になる。8, 9章これは、語学のテキストによせた英語圏文化論の趣があり、執筆者の見解が色濃く反映されている。たとえば、8.3 English, Sexism, Genderの項や、9.2 Food以下の各項などは、門外漢のものにとって、あたかも語学学習を通しての人権学習や社会教養入門書として有益であろう。10章から15章までは、全125ページにわたる、語彙、用法、例文の整理と有効活用法である。それも単なる枚挙ではなく、手を変え品を変えて理解を深めるための工夫が凝らしてある。その範囲は日常用語を遥かに越え、知的交流に必須である抽象語や概念語にわたり、語学専門家のノウハウを惜し気もなくつぎ込んだ語彙の整理法や活用法の秘訣が開陳されている。Advanced courseとしての再学習のみならず、理系の人間にとっては思想や観念の用語的な概観整理として役立つだろう。最後の16章は、本学の総合大学としての全学教育の理念を体現したような、文系理系にまたがった学部学問分野別の専門語彙表現が42ページにわたり列挙されている。分野毎の語の選択と密度には、いささか編集者の趣味の香りがただよっている。たとえば文学(16.1.4)の3ページに対し、映画(16.1.8)は6ページにわたる力作で、Marilyn MonroeからGodzillaまで筆者の熱の入れ方の違いが読む方にもひしひしと伝わり誠に個性的で楽しい。

いかなる学問分野でも、その修得にはまず入り口での基礎術語の理解が前提となっている。この観点からすると、本書は英語運用能力の向上に資するのみでな

く、これらを通読してその用語の意味内容を理解することにより、広汎な専門分野の基礎知識、いわゆる幅広教養の言語表現を日英両語で一通り修得したことになる。つまり本書は単なる語学教科書をこえ、英語の共通教科書を表向きの看板とした、教養用語全書とも見なすことができよう。これに対しては、単なる言葉の羅列、用語のhotchpotch(10.2.4)ではないかという批判が聞こえる。しかし本書では先に述べたごとく、分類項目毎に彼のWittgenstein(16.1.2.1)の論理哲学論をも髣髴とさせる、系統的な数文字が付してあり、分類して表記すること自体が情報の構造化、概念の階層化を生み出すという分類の思想を反論として紹介しておく。

大学一年生の英語教科書としては、はたして本書の内容が学生達に理解されうるかと言う危惧、本書の6.2.26にあるlearnとstudyの違い、つまり教える側の独善か自己満足ではないかとの指摘もあろう。しかし、本学の学生達に本書の内容を真正面から受け止め本気になって格闘してもらうことこそ、単に言語学習を超えて、昨年11月制定された九州大学教育憲章に謳う「国際性」「人間性」「社会性」の涵養という教育理念を実現する有効な一手段となりうるものと信じていた。逆に、語学教科書として物足りないのではという意見には、本書を試みにTOEFL598点の現役学生に見せたところ、特に第一部の上記第三分類にあたる語彙の整理法が極めて有益であり類書を知らない、是非に自家菜籠中のものとせんがため入手したいとのことであった。このことから、本書はむしろ基礎的な語学学習を一通り修了したあと、社会において実際に英語を活用する時にその真価を発揮するのではないかと。つまり、正課の授業では時間的に制約があるからこの本の有効活用法を一通り紹介してその利用価値に目覚めさせ、学生達にはむしろ卒業後も一生にわたって座右においてレファレンスとして利用してもらう性質の本であろう。

国際化が進む中で、英語は第二の母国語と覚悟して使わねばならない。また情報化時代では、インターネットによる海外との電子メール等のやりとりが日常化している。従来強調されてきた日常の会話力だけでは、語学力としては不十分で今後は通用しない、本書にあるようなメールが瞬時にやり取りできるように、読解力や英語による文章表現能力がますます重要になっている。その際には心強い味方として、本書を大いに活

(30ページへ続く)

多面体である“わたし”の発見の時期^{と き}

—学生生活・修学相談室の案内—

た な か た け お
田 中 健 夫

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。長くストイックな受験勉強を終えて（あるいは苦しいだけでなく、みなさん一人ひとりに何か大切なものをもたらしてくれたと感じているかもしれないですが）辿り着いた大学生活に、それぞれが夢や期待、さまざまな不安を抱えていることでしょう。あるいは、夢を膨らませたり期待を感じる余裕などなく、あれよあれよという間に大学生活に入り込んでしまったと感じている人もいるでしょう。

自由さと不自由さ

入学式と各種オリエンテーションが過ぎると、大学の授業が始まります。“生徒”として、求められたものに応えるといった勉強から、何かを自分で求めることがすべての始まりといった“大学生としての学び”への変化に戸惑う人もいるでしょう。単位というシステムも、捉えにくいかもしれません。大学では自由に学べるというイメージだったのが「結構制約が多い」と、戸惑いや違和感を訴える学生がいることから、自由なようで不自由なところも大学生活にはあるようです。

入学して最初の1～2ヶ月は、これまでなじんでいた生活や環境、自分のことを分かってくれた人間関係を離れて、自分なりの大学生活の基盤を築きあげていく重要な時期になることと思います。最初に知り合った友人とだけ、あるいはグループで行動している人とだけつきあって、人間関係が広がらないという悩みを訴える人が毎年多くいます。一見自由な環境の中での不自由さがここにもあります。新しい環境というのは皆、心細いものです。入学当初の心細い時期を支え合った友人は大切なものですが、友人関係を閉じてしまわないこと、一歩大胆に新しい“関係”に踏み出していく勇氣は充実した大学生活を過ごす一つの重要なファクターであり、かつ、けっこう難しいことなのかもしれません。でも、「（自分の）内なる不自由さ」を乗り越えて、これまで出会ってきた人とはちょっと違うなという人や考え方に触れていくことはエクサイティングであり大切なことなのです。

夢を拓き試してみる時期（とき）

大学に入学したからといって、やりたいことや夢が突然にあらわれ、豊かに展開するというものでもありません。興味や好奇心が湧いてこないんです、と語る学生によく出会いますが、示されたことを上手くこなすという高校までのやり方と、自分なりに目標をみつけて取り組む、興味関心を自分で深めていくという能力はそのまま重ならないと考えます。「大学では主体的に動かないと何も始まらない」ので「自分で考えて好きなことをやれ」とどこでも強調されます。それは事実だと思いますが、急ぐことはないのです。それぞれのペースで、それぞれのやり方で好奇心や夢をあたため・拓き・試していくことができるといいですね。大学で学びたいことや将来の進路についてもそうです。自分の専門や、社会の中で実現したいことを、あらためて吟味しながら選びとっていくこと、つまり“進路の再選択”ということも、多くの学生にとって入学期の重要なテーマとなるのではないのでしょうか。自分のやりたいこと、を友人や教官と語り・確かめながら、大学生活を通して、それを豊かにしていってください。「最も多くをなす人は、きっと最も多く夢見る人(Leacock, S.)」なのです。

学生生活・修学相談室の利用の勧め

“わたし”についてのこれらのことを、自分の中で深くみつめていくことも大切ですが、他者との対話を通して考えていくことも意味あることでしょう。これまでに挙げた以外のことでも、例えば、勉強の仕方が分からず自信がなくなった、友人関係や自分の性格について考えたい、何かしたいと思っているのに動き出せないもどかしさを感じている、というときなど、「学生生活・修学相談室」があることを、心のどこかに留めておいて下さい。相談室には、臨床心理学を専門とするカウンセラー（常任相談員）が3名所属しており、学生の皆さんの相談に応じる体制をとっています。ゆっくりと必要な時間をかけて一緒に考え話し合い、皆さんが自分なりの方向を見いだしていくサポートをすることができるかと思います。また、学部固有の修

(学生生活・修学相談室 カウンセラー)

文学部教授	神寶秀夫	医学部教授	吉田眞一	人間環境学府	
教育学部講師	竹熊尚夫	歯学部教授	前田勝正	講師	竹熊尚夫
法学部教授	角松生史	歯学部教授	花澤重正	システム情報科学府	
経済学部助教	古川哲也	薬学部助教	野田百美	教授	竹尾正勝
理学部教授	網代芳民	工学部教授	荒井康彦	比較社会文化科学府	
理学部教授	小田垣孝	工学部教授	江原幸雄	教授	田中良之
理学部教授	松岡修	工学部助教	原田明	数理学府	教授
理学部助教	山内敬明	工学部教授	金山寛	総合理工学府	
理学部助教	谷村禎一	農学部教授	村田武	助教	原田明

新任教官自己紹介



自己紹介

さとう れんや
佐藤 廉也

昨年11月1日付けで着任いたしました。以前は、京都大学の総合博物館に勤務していました。専門は文化地理学・生態人類学です。とくに、熱帯林にくらす人びとの環境利用、生業技術、経済、社会・宗教変化などに関心を持っています。

といっても、世界の熱帯林を広く歩いているわけではありません。研究をはじめてからは、エチオピアの森林を集中的に訪れています。大学院時代のだいたい半分くらいの時間をエチオピアで過ごしました。

そのエチオピアの森の中で人びとは、斧と山刀を使って小さな集落をひらいて焼畑をつくり、蜂蜜などの森林産物を採集しながら生活をしています。森の仕事の実際を記録するのが私の主な仕事のひとつだったので、毎日見習いの子どものように人びとの後ろに

くっついて森を歩き回りました。季節によって活動の場所は変わりますが、泊まりがけで森の奥に蜂蜜採集にでかけたり、遠くよその集落に知人を訪ねてでかけるときなど、暗い森の踏み跡をたどりながら心が弾む気持ちになることが何度もありました。高校・大学時代に山登り、とくに沢登りを好んでやっていたこともあり、森の空気を吸うこと自体が好きだったのです。

焼畑の世界では、簡単に住居を放棄して友人や親戚のいる別の集落へ引っ越してしまったり、集落自体を丸ごと棄てて散り散りに移住してしまうことがごく普通におこります。こうした社会では、それぞれの世帯が生産する物が蓄積されることなく消費され、他人に行動を制限されることが少ないのです。人類は長い時間、こうした生活を営んできたはずですが、何らかの条件が整ったとき、家族ではつくれないような大きな仕掛けをこしらえ、それによって生産物を大量につくり、一部の人がある分配に責任を持つようになっただけなのでしょう。その転換の条件がどのようなものだったのか、森の中で鈍い頭をひねって考えています。

(比較社会文化研究院)

合宿授業より (12, 13頁参照)



ポスターセッションなんてはじめて



マテバシイ樹冠上で光合成の蒸散の測定

(27ページ「英語を超えた英語教科書」より続く)
用して使いこなしてほしい。さらに学生時代からでも、本学の短期交換留学制度などを積極的に活用して、できるだけ海外に出て行き広く見聞を深めて欲しい。他国を理解するためだけではない、外から見てみないと

内のことも真に認識するは難しいのである。

ぜひ広い世界に大きく羽ばたいてもらいたい。

30年後の君たちの先輩から送る、心からのメッセージと期待である。

(副学長 医学部)

表紙写真説明

「スケーリング・ニューハイツ」

新学期、春です。統計的に正確かどうかは知りませんが、春は天気がいいという気がします。新しい場所、新しい人々、どこか気後れして遠慮してしまったり、「これでもいいや」なんて、どこか自分の気持ちを押しやしてしまう。「でも春だから」、そんな理由で何も考えずにおもいきって自転車に乗ってアクセルを踏み出し起動してみる。それからまた、何かが始まる。ダメかどうか、嫌いかどうかなんて、その後自分で決めればいいこと。とにかく始めてみれば。そんな思いで撮影しました。また、この写真は「スケーリング・ニューハイツ」という Asian Dub Foundation の曲をモチーフにイメージを作りました。福岡でライブをした際、バンドのベースの Dr.ダスが「今年のフジロックに参加したんだけど、そのときに富士山の山肌に沈む夕日がとても綺麗だった。素晴らしかった。それを思い描いてもらえたら嬉しいよ」と言っていました。みなさんも、陽光をいっぱいに浴びながら、この曲を聞いて自転車に乗ってみてはいかがでしょうか。でも、くれぐれも交通安全には気を配りましょう。

(比較社会文化研究科 博士課程3年 西谷 郁)

九大をつかいこなそう.....	2
どの授業を選択しようかな?.....	8
「学生による授業評価」の結果について.....	11
合宿授業	
森に触れてみませんか?.....	12
体験的農業生産学入門.....	13
第26回九州地区国立大学間合宿共同授業.....	13
こんな授業みつけ.....柳川 綾 他	14
空き缶と弁当箱のリサイクル.....相良 博喜	18
サークル紹介 20	
尋常じゃない：サイクリング同好会	
玉屋 宏進	20

パソコンで結晶構造を調べる.....石田 清隆	21
世界・日本 9	
ケンブリッジ・北京・ミュンヘンで	
外国語を学ぼう.....	22
英語で授業を受けてみませんか.....	24
君も世界へ翔たこう.....	25
英語を超えた英語教科書:	
A Passage to English によせて	
柴田洋三郎	26
多面体である“わたし”の発見の時期(とき)	
田中 健夫	28
新任教官自己紹介.....佐藤 廉也	30

投稿・写真歓迎

編集委員会では radix への投稿、紙面を飾る写真を募集しています。あなたが関わっている様々な活動。六本松地区や「全学教育」にまつわる出来事、六本松の思い出など、六本松や「全学教育」に関するものであれば何でも結構です。

写真も、キャンパスでのもの、旅先でのものをはじめ、あなたの作品、ぜひ紹介したい知り合いの作品など、広く募集しています。応募、推薦の対象は六本松や「全学教育」に関わりのある全ての方です。

radix 学生モニター募集

編集委員会では radix に対する学生の意見を広く聞くために、モニターを募集し、「学生モニター会議」を開きます。また学生編集委員も募集しています。学生の皆さん、多数ご応募ください。募集は常時行っています。

投稿、写真、モニターの応募は下記で受け付けます。

編集委員	熊谷 秋三 (健セ ☎7853)	小山 紘三 (大教セ ☎4585)	志水 俊広 (言文 ☎4697)
	成清 修 (理学 ☎4767)	濱野 清志 (アドミッションセ ☎4805)	毛利 嘉孝 (比文 ☎4594)
	山村ひろみ (言文 ☎4655)	渡邊 正治 (事務部 ☎4506)	
企画掛	☎4526 本館1階西側		



北海道の畑って広いな 合宿授業より（12頁参照）

あ と が き

この原稿に最後の手を入れている今は、3月の終わり。桜の花を見るにはまだいくぶん早い。学生のいない静かで落ち着いたキャンパスを見ながら、我々編集委員はもうじきやってくる新入生諸君のことを考えている。

新世紀だなんだといわれ大騒ぎの末にむかえた21世紀。結局、これといって目新しいことは何も起こらなかった。まわりを見渡せば相変わらずの不景気。大学も同じだ。改革、改革といわれながらも具体的に何をしたいのか分からない。そんな状況のところに胸はずませてやってきた新入生諸君を我々教員はどう迎えればいいのか？ 本気になって考えれば考えるほど、我々は頭をかかえてしまう。

新学期というのにこんな否定的なことを書いてしまうにはわけがある。「学生による授業評価」である。確かに学生諸君の意見には積極的に耳を傾けなければ

ならぬ。当然のことだ。しかし、彼ら学生は教員の話に耳を傾ける必要はないのか？ 「理解度を把握して授業を進めてほしい」、「理解できるように説明に工夫がほしい」。なるほど、と思いつつも、ちょっと待ってくれ、とも思う。我々にしてみれば、難しい内容は難しいのが当たり前、簡単にすることはできない。そんなことをしたらその内容の本質を見失ってしまうことにもなりかねない。だからこそ我々は学生諸君の内発的努力に期待するのだが、残念ながら我々のそういった願いはどれも受入れてもらえないらしい。非はやはり我々教員の側にあるということか？

こんな気分を抱えながらも、時間は確実に過ぎていく。あっという間に新しい授業が始まる。そのとき我々はいったいどういう顔をして学生諸君の前に姿を現しているのだろうか？ また、同じあやまちを繰り返さぬことを祈るばかりである。

H. Y.

radix（ラーディクス） No. 28 （九州大学全学教育広報）

発行日 2001年4月7日

発行所 九州大学大学教育研究センター

〒810-8560 福岡市中央区六本松4-2-1

電話 (092) 726-4525・4526（企画掛）

FAX (092) 726-4530